

# 稲作情報 (Vol.7)

令和6年7月24日  
 石巻地方米づくり推進本部  
 宮城県石巻農業改良普及センター  
 TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

**出穂期は7月28日頃の見込みです。斑点米カメムシ類注意報が発令されました。**

## 7月中旬の気象経過

7月中旬の気温は平年を上回って推移し、最高気温が30℃を超える真夏日が4日間ありました。日照時間はやや多く、降水量は平年を上回り、7/9、10、11には44mm、14.5mm、19.5mmのまとまった降雨がありました。

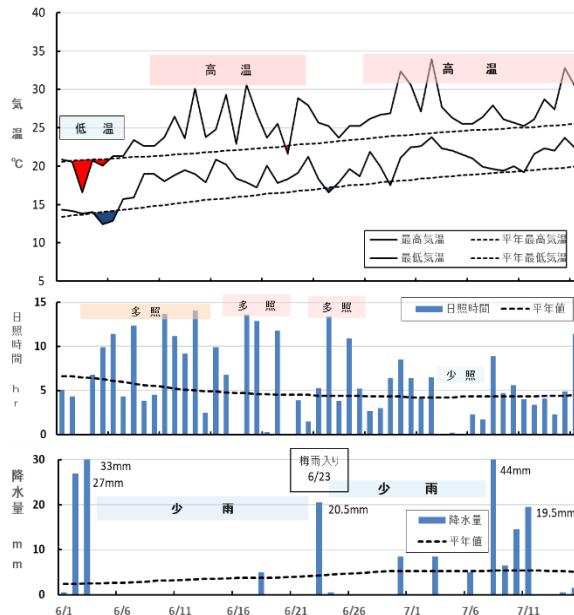


図1 田植後の気象経過(アメダス石巻)

## 水稻の生育状況

### 移植栽培

＜草丈は長く、葉数は多いです。出穂は平年より6日早まる見込み＞

- ・草丈は、72.9～92.1cmで平年比105～108%で平年より長い傾向です。
- ・茎数は、357～555本/㎡で、全てのほ場で前回調査より減少しています。平年比は91～110%とほ場により傾向が異なります。
- ・葉数は、12.0～13.3枚で、矢本ひとめぼれで平年並み、その他のほ場は平年より1枚多くなっています。
- ・葉色は、ひとめぼれでは平年並み、ササニシキでは平年より濃くなっています。
- ・幼穂長は5月5～6日植えのひとめぼれほ場で111～152mm、それ以外の5月9～17日植えのササニシキ・つきあかりでは35～178mmとなっています。減数分裂期は7月14～19日頃で、7月末には出穂期を迎えるものと推定されます。

表1 生育調査ほ等の調査結果(7月19日現在)

品種名	地区名	田植月日	草丈(cm) (平年比)	茎数(本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	幼穂形成始期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	備考
ひとめぼれ	石巻市広淵	5/6	74.1	407	13.2	36.6	152	7/5	7/14	新規
ひとめぼれ	東松島市矢本	5/5 (-2)	76.1 (105%)	555 (100%)	12.0 (-0.3)	36.9 (+0.6)	111 (+36)	7/5 (-2)	7/15 (-3)	
ササニシキ	石巻市桃生	5/17 (+6)	72.9 (109%)	518 (91%)	12.9 (+1.1)	36.6 (+4.2)	35 (-19.4)	7/7 (-1)	7/19 (+0)	
ササニシキ	石巻市稲井	5/9 (0)	74.1 (108%)	536 (110%)	12.9 (+1.1)	37.7 (+2.8)	178 (+117)	7/4 (-5)	7/14 (-4)	
つきあかり	石巻市広淵	5/9	92.1	357	13.3	46.7	173	7/3	7/14	新規

品種名	地区名	播種日 (平年差)	草丈(cm) (平年比)	茎数(本/㎡) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) (平年差)	幼穂形成始期 (平年差)	減数分裂期 (平年差)	備考
乾直ササニシキ	石巻市河南	4/2 (-5)	80.0 (118%)	684 (121%)	12.4 (+1.5)	33.7 (-0.9)	171 (+153)	7/1 (-13)	7/11 (-11)	
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	4/5	74.6	454	12.8	41.6	17.8	7/8	7/21	新規

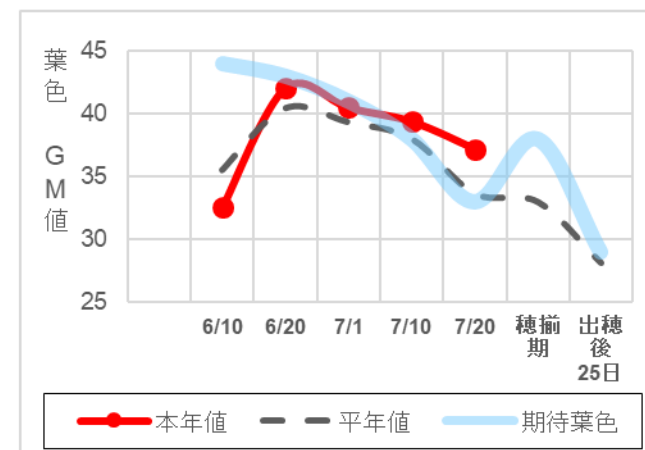
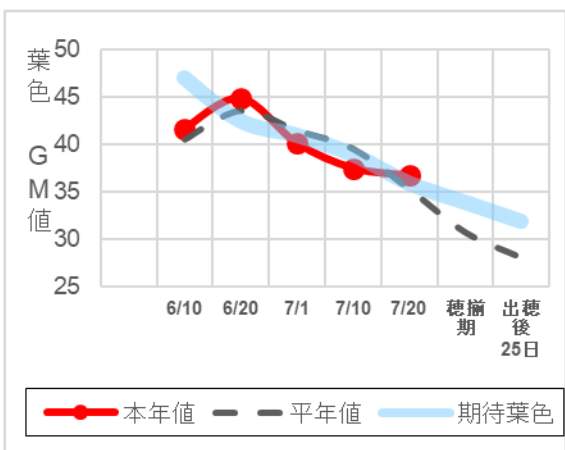
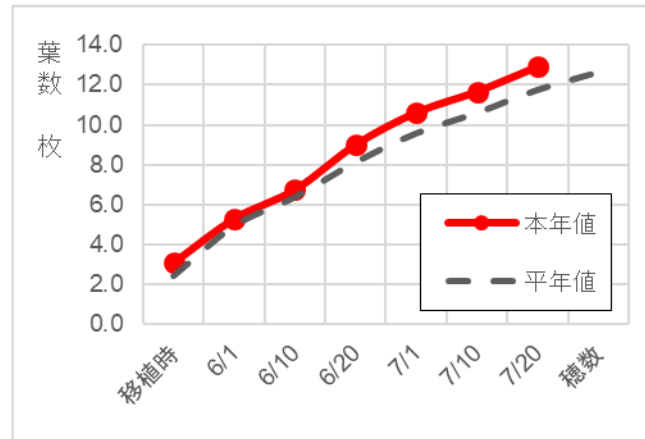
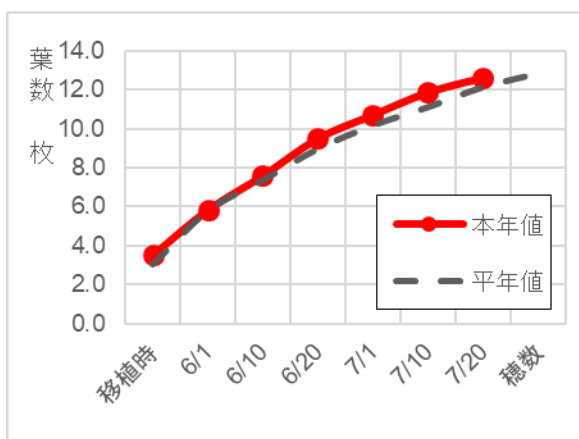
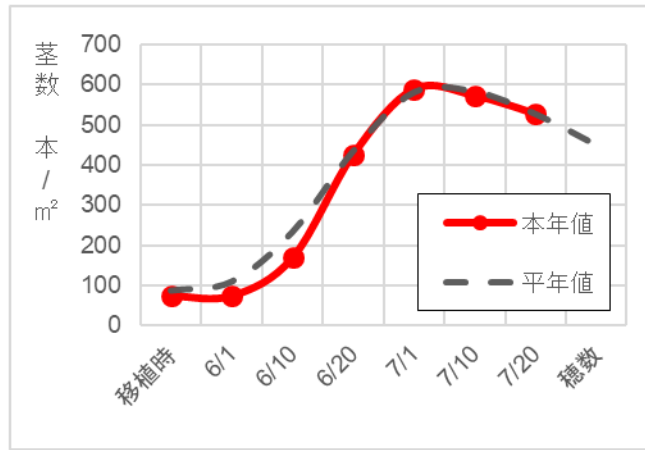
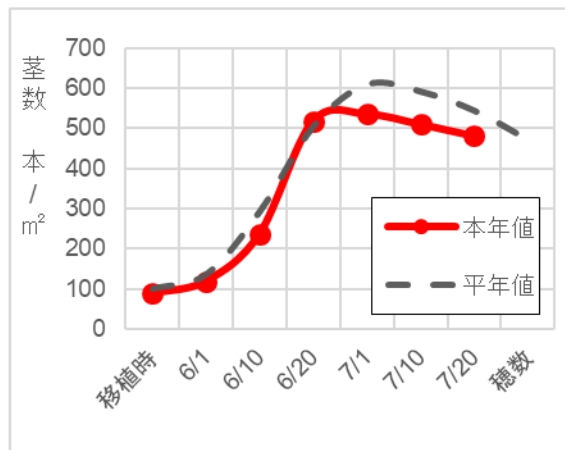
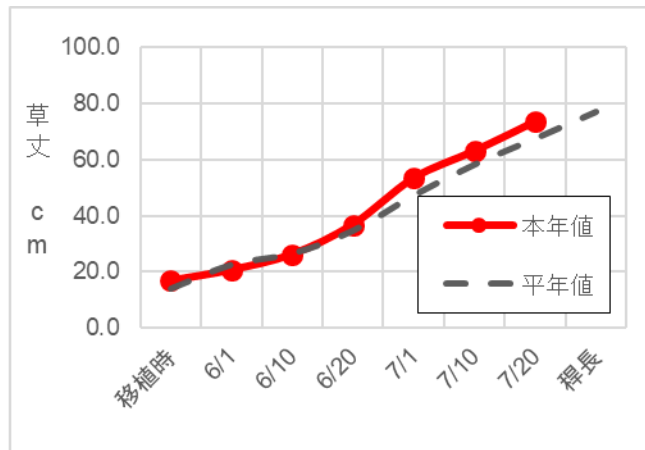
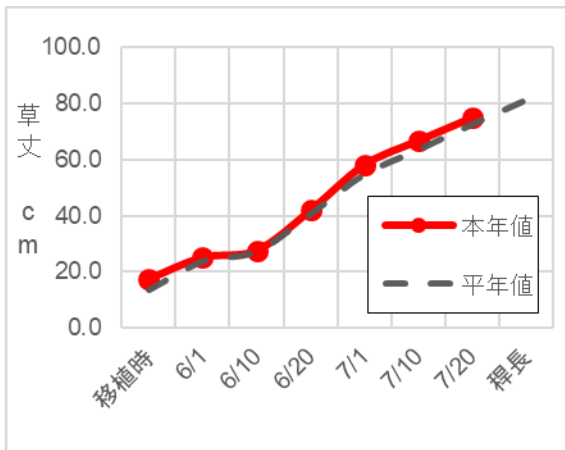


図2 hitomeboreの生育経過 (2ほ場平均)

図3 sasanihikiの生育経過 (2ほ場平均)

## 乾田直播栽培

- ・河南ササニシキは、草丈・茎数・葉数とも平年を上回っています。葉色は平年より、わずかに淡くなっています。桃生ひとめぼれでは草丈74.6cmで移植栽培のほ場と同等です。茎数は454本/m<sup>2</sup>と、目標の茎数に達し、葉色は目標値よりもやや濃くなっています。河南ササニシキの減数分裂期は7/11で平年より11日早く、桃生ひとめぼれは、7/21に減数分裂期に達する見込みです。



写真2 矢本ひとめぼれ ほ



写真3 乾直ササニシキ



写真4 広瀬つきあかり

表2 生育予測モデルによる出穂期予測

	田植始期 (5%) 5/3	田植盛期 (50%) 5/9	田植終期 (95%) 5/22
幼穂形成期	6月29日	7月3日	7月12日
減数分裂期	7月14日	7月18日	7月26日
出穂期	出穂始期 (5%) 7月24日	出穂盛期 (50%) 7月28日	穂揃期 (95%) 8月5日
平年差	5日早い	6日早い	4日早い

7/21以降の平均気温は前5か年平均値を利用  
出穂期の平年値は前5か年平均値

生育予測モデルによる生育ステージの予測では、5/9田植えでは、出穂は7/28で平年(8/3)より**6日早い**と予想されます。(7/22現在。7/21以降は前5か年平均値で計算した。)



写真1 穂揃期に達しているほ場(極早生種、7/17撮影)

## 今後の管理

### 1 水管理 ～出穂後30日頃までは飽水管理を～

- ・出穂期前後の基本的な水管理は下図のとおりです。出穂期は水を多く必要とする時期なので、浅水管理とし、その後は飽水管理で水を切らさないようにしましょう。
- ・出穂後5～15日の最低気温が23℃以上が連続するような高温の場合、白未熟粒が多発し、著しい品質低下を招く危険がありますので、「**飽水管理**」を行うことで**日中及び夜間の地温上昇を抑えることが期待できます。**

※飽水管理：足跡の水がなくなったらごく浅めに入水する(表土が十分湿る程度)。十分な用水の確保ができず「昼間湛水・夜間落水管理」等が難しい地域やほ場では、「飽水管理」が有効です。

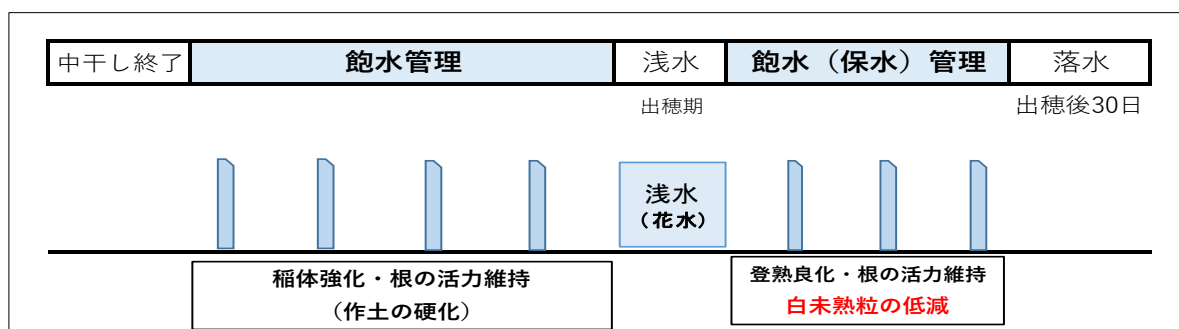


図4 高温時の飽水管理体系

- 低温が予想されるときは、幼穂形成期から出穂・開花までの期間は低温による障害を受けやすいので、天気予報に注意し、日平均気温 20℃以下又は最低気温 17℃以下の低温が続くと予想された時は、幼穂を保温するために深水管理としましょう。
- 早期落水は、登熟不良や品質低下の原因となるので、出穂後 30 日を目安に、収穫作業に支障のない範囲でできるだけ遅くしましょう。

## 2 追 肥（詳細は稲作情報V○1.5及びV○1.6を参照してください）

- 白未熟粒による品質低下は登熟初期の高温と穂揃期の窒素栄養不足が原因となっています。葉色が淡く、まだ減数分裂期（出穂 15～10 日前）で追肥可能なほ場では適切な追肥を行いましょう。

## 3 病害虫対策 ～ 斑点米カメムシ類の注意報が発令されました～

- 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ）の本田侵入始期は「早い」（第 2 世代成虫：8 月第 2 半旬）、発生量は「多い」と予想され、「注意報第 1 号」が発令されました。今年度は出穂時期が早まる見込みで、アカスジカスミカメ第 2 世代成虫の発生が重なる可能性があるため、適期防除できるよう留意しましょう。
- すでにアカスジカスミカメの第 1 世代成虫発生盛期を迎えているため、今後は水田周辺の畦畔の草刈りは原則行わないようにしましょう。
- 薬剤防除は穂揃期とその 7～10 日後の 2 回防除が基本です。2 回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除が必要となります。イヌホタルイが除草できなかった場合は、1 回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させることができます。
- 環境保全米等でやむを得ず 1 回防除となる場合には、穂揃後 3～5 日頃に散布してください。

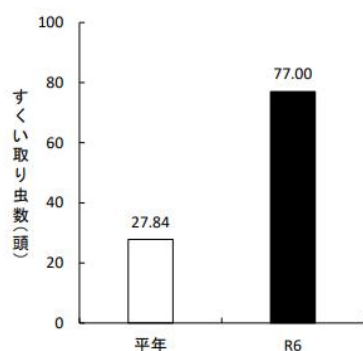


図5 周辺草地におけるアカスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)

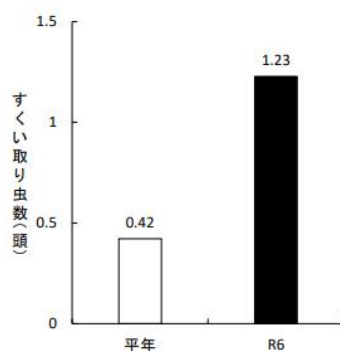


図6 本田におけるアカスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)



写真 アカスジカスミカメ

- 県内の葉いもち発生量は「やや少」、穂いもちの発生量は「やや少」で発生期は「平年並み」（7 月第 6 半旬 7/26～7/31）とされています（7 月 22 日 宮城県病害虫防除所発表）。アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）では、7 月 1～15 日にかけて、県広域で感染好適条件が出現しています。水田の見回りをこまめに行い、葉いもちの早期発見に努めましょう。
- 紋枯病の発生量は「平年並み」、稲こうじ病発生量は「やや少」と予報されています。

## 東北地方 1 か月予報

(7月20日から8月19日までの天候見通し)

令和6年7月18日仙台管区气象台 発表※抜粋

### <特に注意を要する事項>

東北太平洋側では、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

### <予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	10	80
【降水量】	東北地方	20	40	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

### <気温の階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週目	東北太平洋側	10	10	80
2 週目	東北太平洋側	20	30	50
3~4週目	東北太平洋側	20	30	50

## 高温に関する早期天候情報(東北地方)

令和6年7月22日14時30分

仙台管区气象台 発表

東北地方 発表はありません。

しかし、東北太平洋側の2週間気温予報では、向こう2週間の気温は平年並み~高くなると予想されています。

熱中症の危険性が高い状態となります。屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保したりするなど熱中症対策を行い、健康管理等に注意してください。また、農作物や家畜の管理にも注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には高温に関する気象情報を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

～ 宮城県農薬危害防止運動実施中！(6月1日から8月31日) ～